

## 令和元年度第9回 感染症発生動向調査部会

令和元年12月18日

月番：馬場 尚志（感染症全般）、石山 俊次（STI）

### 1 前月の感染症発生動向について（2019年第45週～第48週・11月）

#### <全数把握対象疾患>

（感染症全般）

- ・ 結核は毎週報告あり。累計数は前年同期までと比較して1割弱増加している。
- ・ つつが虫病が2例報告された。
- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症が第48週に3例報告された。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症が3例報告され、うち2例は4回のワクチン接種歴がある小児であった。
- ・ 梅毒は6例報告され、早期顕症4例（40代男性3例、20代女性1例）、無症候性2例であった。
- ・ 百日咳は22例報告され、うち20例は5～19歳で、全員に4回のワクチン接種歴があった。成人例は2例（30代1例、40代1例）であった。前年と比較し報告数全体は増加している。一方、成人例は減少し、全体に占める割合が低下している（2018年：40.2%→2019年第48週まで15.2%）。

（STI）

- ・ 後天性免疫不全症候群は期間中2例の発生があり、いずれもAIDSであった。本年累計は13例となったが、前年同期累計22例に比べ59.1%と減少している。
- ・ 梅毒は期間中、早期顕症4例、無症候2例、計6例の発生があった。本年累計は74例と前年同期累計68例を上回っている。（対前年比108.8%）  
全国的には2018年は7,001人と49年ぶりに7千人を超えたが、本年は現在のところ6,079人3年連続で5千人を超えたものの、7千人台に到達する可能性は低く、2010年以降続いていた増加傾向が頭打ちになるかもしれない。

#### <定点把握対象疾患>

（感染症全般）

- ・ インフルエンザは第46週に県全体の定点当たり報告数が流行入りの目安となる1を超えた。前年同期比406.2%、前月比288.8%と例年より早い時期からの流行がみられている。
- ・ 感染性胃腸炎は前月比131.9%とやや増加傾向がみられる。

（STI）

- ・ 性器クラミジア感染症：10月に報告数の増加がみられたが11月は従来の報告数に戻っている。10月の増加は男女とも岐阜での増加によるものであった。11月も男性10例のうち9例が岐阜での発生であり、今後も注意深く観察を続ける必要があると考えられる。
- ・ 性器ヘルペスウイルス感染症：クラミジアと同様に10月に報告数の増加がみとめられ、岐阜と飛騨の男性の報告であったが、11月は従来の報告数に戻っている。

## 2 検討すべき課題

(馬場委員)

- ・ 感染症に関する情報サイトの整備/充実（特に輸入感染症？） → 使いやすくする工夫 → 紹介/宣伝
  - 岐阜県/岐阜県感染症情報センターの website に各種情報サイトを集約する？  
例えば、輸入感染症、渡航者感染症では
    - ・ 日本感染症学会 症状からアプローチするインバウンド感染症への対応 ～東京 2020 大会に向けて～ 感染症クイック・リファレンス (<http://www.kansensho.or.jp/ref/>)
    - ・ 日本感染症学会、日本化学療法学会、日本環境感染学会、日本臨床微生物学会 「オリンピック・パラリンピックに向けての感染対策」 (動画)  
([http://www.kansensho.or.jp/modules/activity/index.php?content\\_id=31](http://www.kansensho.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=31))
    - ・ 国立感染症研究所 感染症疫学センター (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)
    - ・ 厚生労働省 検疫所 (<https://www.forth.go.jp/index.html>)
    - ・ 外務省 世界の医療事情 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html>)
    - ・ 日本渡航医学会 (<http://jstah.umin.jp/>)
    - ・ 国立国際医療研究センター病院 トラベルクリニック (<http://travelclinic.ncgm.go.jp/>)  
など？

(保健医療課)

- ・ 疑似症サーベイランスの運用について

## 3 情報提供すべき事項

- ・ 渡航者（旅行者）感染症について（馬場委員）

## 4 情報提供（月番委員専門分野から）

(馬場委員)

- ・ 国の薬剤耐性（AMR）対策について
  - 薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2019（2109年11月27日）  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000571551.pdf>
  - 抗微生物薬適正使用の手引き 第二版（2019年12月5日）  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000573655.pdf>
  - AMR 臨床リファレンスセンターwebsite でも各種情報を更新 (<http://amrcrc.ncgm.go.jp/>)
    - ・ 全国抗菌薬販売量サーベイランス  
<http://amrcrc.ncgm.go.jp/surveillance/020/20190902163931.html>
    - ・ 抗菌薬使用量サーベイランス  
<http://amrcrc.ncgm.go.jp/surveillance/010/20181128172333.html>
    - ・ 情報サイト「かしこく治して、明日につなぐ」

<http://amr.ncgm.go.jp/>

(石山委員)

- ・梅毒は完治するには早期で見つかっても約4週間毎日3回ずつ抗菌薬を飲み続ける必要があるが、治療が完了しなくても症状が消えるため、服用をやめてしまう場合が少なくない。
- ・こうした実態を受け、厚労省は薬を飲み忘れていないか電話などで複数回確認し、半年後に検査を受けて治療の効果を確認するように促す事業を始める。確認する保健所職員の人件費を自治体に対して補助する。来年度の概算要求に約1,900万円を盛り込んだ。事業は患者本人の同意を得た上で、プライバシーにも十分配慮して行うという。(朝日新聞より)

---

<検討結果>